

山ぼうしは「立志の樹」といわれ、正門脇の「やまぼうし小庭園」には、
『花も実も 蒼天に立つ 山ぼうし』
の碑（初代PTA会長 盛合聡の揮毫）がある。



山ぼうし - 友愛・協調・責任 -

2015年1月26日 NO.10(1月号)
岩手県立宮古工業高等学校 校報(発行者 校長)

祝

第8回キャリア教育優良教育委員会、 学校及びPTA団体等

「文部科学大臣表彰」表彰式

平成27(2015)年1月21日(水)

【推薦調書】

本校は、昭和48年創立で、現在は「機械科」「電気電子科」「建築設備科」の3学科から構成される工業高校である。3. 1 1東日本大震災では津波により校舎1階が浸水するなど大きな被害を受けたが、岩手県当局はもちろん、全国からの支援と産学官民の連携等を礎に、「地域の復興に向け、地域とともに協力し助け合い、地域貢献活動に積極的に関わり保護者及び地域に信頼される学校」を目標に掲げ、下記1及び2に記載したような地域に根ざしたキャリア教育を推進してきた。本校でのキャリア教育のねらいは、「社会人・職業人としての自立」である。そのために、地元の企業を校長や進路課長が幾度となく訪問し、しっかりとした信頼関係を築いた上で、インターシップを一步進めた「パイターン」、社会人基礎力育成等をねらいにした「商工会議所青年部による模擬面接練習」、そして地元の優れた女性技術者が講師となる「女子高生ものづくり体験実習」(学校枠無)などを通して、生徒に未知なる経験や仕事の誇りと働く喜びを体験させ、これまでの学びやこれからの学びが、将来の自分や社会に対して果たす役割などをしっかりと考えさせるとともに、生徒が体験を文章化することで自己探求を深め生徒の自己実現につなげている。さらに、産学官民が連携し「宮古・下閉伊ものづくり最前線」をテーマにしたDVD制作には本校も協力し、完成したDVDを全校で視聴した後、事後指導及びアンケートの実施・集計、そしてその結果を企画元である岩手県沿岸広域振興局や宮古・下閉伊モノづくりネットワークに報告・要望することで、学年PTAと抱き合わせたシンポジウムの開催へと発展し、生徒の地域貢献に対する意欲をより一層高めることができた。このように地元の特性を活かした本校独自の特色ある取り組みを実施することにより、岩手県のキャリア教育のねらいである「総合生活力」と「人生設計力」の育成に努めている。また、各種取り組みやその成果等については、実施後速やかに、生徒・保護者をはじめ地域の皆様や関係諸機関に、「校報(山ぼうし)」として情報を発信し、御助言等を頂くことで改善に努めている。併せてマスコミによる情報発信も有効に活用している。

1 地元産業との協働によるキャリア教育の推進

- (1) 宮古商工会議所青年部による模擬面接練習
- (2) 早期離職を防ぐ手立て～パイターンの実施～
- (3) 女子高生ものづくり体験実習 (本校が宮古市内の全ての高校に呼びかけを行った)
- (4) 未来への挑戦！リアスのフロンティア～宮古下閉伊ものづくり最前線～
～DVD学習について～
- (5) ものづくりDVDにかかわるシンポジウムの開催
- (6) 地元企業経営者からの講演会開催
～保護者進路説明会並びに教職員意識向上講座～
- (7) 宮古市産業支援センターとの連携



基礎学力の向上は普通科や工業科を問わず、岩手県の高等学校に共通する課題であり、卒業生のほぼ80%が就職する本校もその例外ではない。そこで本校は、将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本を従来にも増して重視するとともに、義務教育段階も含めた算数・数学の基礎学力向上に努めることで、地元の期待に応え、自ら考え、課題を探究し解決する実践的な態度と能力の育成により一層つなげていきたいと考えている。その方策は、1学年を対象に、冬休みから学年末臨時時間割を活用しながら、数学検定3級の取得からスタートし、学年進行とともに上位級にチャレンジするものである。これらの取り組みと並行して、課題研究では、①比べる②分類する③結び付ける④まとめる、という4つの思考スキルを使って、「思考」「判断」「表現」というサイクルを生徒が実際に体験することに力を置いている。例えば津波模型班は、この夏、徳島県からの依頼を受け、直面する課題に対して、実演内容に工夫を加え(「思考」「判断」、現地で発表し(「表現」)地元の小・中学生及び高校生と交流会を行った。この活動の中に「思考」「判断」「表現」というサイクルが事実に含まれており、徳島県の各学校での取り組みと本校の取り組みを比較・結び付ける(①～④の思考スキル)ことで、生徒たちは良い意味での刺激を受け「負けれない」という意識の向上や自信につながった。発表(教える)することで理解が深まり、学び直しにもつながることは小学校や中学校での出前授業を実施する上での大きなねらいの一つであり、日頃の学校教育の中でも力を入れている活動である。

2 小中高連携・課題研究等によるキャリア教育の推進

- (1) 小学校への出前授業(課題研究)
- (2) 中学校への出前授業(課題研究)
- (3) 有形文化財の模型による保存活動(課題研究)
- (4) 10年目を迎える「津波模型班」による防災教育及び啓発活動の継続実施(課題研究)
- (5) 3学科による課題研究(上記(1)(2))以外:車椅子製作等)
- (6) 復興支援(金沢北陵高校との学校間交流、豪州の基金による野球交流等)への対応
- (7) 中学校生徒の本校での実習体験活動
- (8) 鮭の町復興クリーン大作戦(小中高連携)

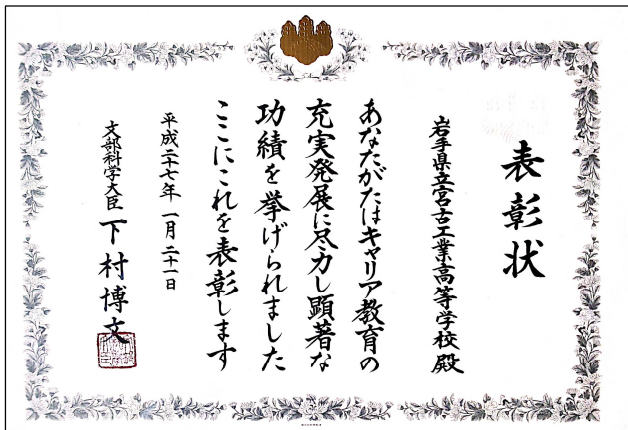
これらの取り組みの成果として、生徒の学校に対する帰属意識が高まるとともに、各種検定試験における合格率が向上し、就職率も過去6年間早期100%を達成している。

(1) 「表彰式」

- ア 表彰式の日時
平成27年1月21日(水曜日)
10時30分～11時30分
- イ 会場
国立オリンピック記念青少年総合センター
国際交流棟 国際会議室



【図1】国際交流棟 国際会議室



【図2】表彰状

(2) 「平成26年度キャリア教育推進連携シンポジウム」

- ア 日時
平成27年1月21日(水曜日)
13時00分～17時30分
- イ 会場
国立オリンピック記念青少年総合センター
青少年総合センターカルチャー棟大ホール



【図3】キャリア教育推進連携シンポジウム

祝 ボランティア・スピリット賞(全国表彰) 宮古工業高校 津波模型班 「SPIRIT OF COMMUNITY 奨励賞」受賞

「山ぼうし」No. 8(11月号)でもお知らせしました、青少年のボランティア活動を支援する「第18回ボランティア・スピリット賞」の全国表彰式が、昨年(2014年)12月27日(土)、大阪国際会議場イベントホールで開かれ、「SPIRIT OF COMMUNITY 奨励賞」に、本校機械科津波模型班が選ばれました。おめでとうございます!!

また、文部科学大臣賞に北海道旭川市の中高生団体「FLEAD」と、島根県益田東高校2年の大羽健太郎君(17)が選ばれました。

今年(2015年)5月に米国のワシントンで開かれる全米表彰式には、大羽君と早稲田実業高校の榎部紗永さん(17)が米国ボランティア親善大使として参加することになりました。

なお、これらの賞は、全国7ブロックから応募があった1831の団体や個人の中から選ばれたものです。

文部科学大臣賞		
ブロック	都道府県	学校名・氏名(グループ名)
北海道・東北	北海道	FLEAD
中国・四国	島根県	益田東高等学校 大羽 健太郎さん

米国ボランティア親善大使		
ブロック	都道府県	学校名・氏名(グループ名)
首都圏	東京都	早稲田大学系属早稲田実業学校高等部 榎部 紗永さん
中国・四国	島根県	益田東高等学校 大羽 健太郎さん

SPIRIT OF COMMUNITY 奨励賞		
ブロック	都道府県	学校名・氏名(グループ名)
北海道・東北	岩手県	岩手県立宮古工業高等学校 機械科 津波模型班
北関東・信越	群馬県	藤岡市立東中学校生徒会
首都圏	東京都	内山 七海さん
東海・北陸	静岡県	静岡県立富岳館高等学校 農業クラブ
東海・北陸	愛知県	名古屋高校生国際ボランティア団体ー どえりやあwings
関西	大阪府	大阪府立旭高等学校 吉岡 葵さん
関西	京都府	京都府立桂高等学校 京の伝統野菜を守る研究班
九州	宮崎県	笛水夏祭り子どもプロジェクト



【図4】「Spirit of Community 奨励賞」の表彰状(左)と盾(右)

「第18回ボランティア・スピリット賞」の感想

私が会場に入ってからすぐに驚いたことがあります。それは、ボランティア・スピリット賞に選ばれた方の数の多さです。全国にはこれほどの凄いボランティアが存在するののか。と思いました。そして、これからの3日間をここにいる皆さんと仲良く過ごすことができるだろうか、そういう不安がありました。しかし、このイベントが始まってすぐに、その不安は吹き飛んでしまいました。それぞれ初対面のはずなのに、フレンドリーに話しかけてきたのです。いつの間にか、これからの3日間が楽しみになっていました。

さて、最初に活動紹介がありました。3分間という短い時間の中で、それぞれが思い思いに活動内容を話しました。中には言い切ることができずに終わってしまう方もいましたが、私は全ての活動がとても素晴らしく思えました。津波模型班の活動自体も素晴らしく思っていました。次に、グループワークを行い、テーマにそって意見を話し合いました。そこではアイデアが次々と出てきて、それらを1つにまとめて発表するという、有意義な時間を過ごすことができました。表彰式では津波模型班がボランティア・スピリット奨励賞に選ばれ、とても感動しました。直後のインタビューでは緊張してしまいましたが、私たちの活動をその場で伝えることができたので良かったです。

私が過ごした3日間は、非常に有意義な日々でした。様々な活動を知ることができる良い機会となりました。思っていた以上にボランティアが存在していたことを知り、勉強にもなりました。このイベントで感じたことをこれからの活動に活かしていきたいと思いました。

【機械科3年 佐々木 柊亮】



第8回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等「文部科学大臣表彰」を受賞して

本校は、平成26年度「創立40周年」を迎えました。本校の歴史と伝統は、それぞれの時代に在籍した教職員、生徒、そしてまた、同窓会及びPTA等、関係各位による努力の賜であります。

また、平成23年3月11日に発生した「東日本大震災」では、本校1階は津波に飲み込まれ、学校としての機能が全て奪われてしまいました。しかし、地域の皆様はもとより全国からの心温まる御支援に励まされながら、宮古工業高校は教育活動を再開することができました。

今般、第8回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等「文部科学大臣表彰」を受賞できたことは、前述した皆様方の御支援・御尽力があったからこそだと考えています。

今後とも本校生徒は、しっかりと志の下、充実した人生を送るための原動力となる健康・体力、豊かな人間性、確かな学力等に磨きをかけ、社会人・職業人として自立するために重要な舵取りの役割を果たす、社会を把握する能力、勤労観・職業観、そして将来設計力等の育成に努めます。